



全日本トラック協会
坂本 克己会長

日本タクシー代表取締役会長、大阪運輸倉庫代表取締役会長、北港観光バス代表取締役会長。
昭和13年10月27日生まれ。平成12年・近畿交通共済協同組合理事長、同19年・全国トラック交通共済協同組合連合会会長。同22年5月・大阪府トラック協会会長、近畿トラック協会会長。同年6月・全日本トラック協会副会長、全日本トラック事業政治連盟会長。同28年・大阪府トラック協会名誉会長、近畿トラック協会相談役。同29年・全日本トラック協会会長。

「正直者が馬鹿を見たらいけない」坂本氏

坂本会長「そういう意味でも、各県で懸命に頑張っていたらいるトラック事業者、そこにくれるドライバーの皆さんには本当に感謝しています。今年はさらに社会のため、地域のためになるような年にしなければならぬという思いです。この改正事業法をきっかけとして、それに尽きると思います。我々の業界は明るい年になると思います」

林幹事長代理「儲からなければ人は来ない。農業も漁業もそうです。だから儲かる事業を展開する。儲かる事業を展開すれば、それなりの事業に対しても対応できるわけです。儲からなければやりたくてもいきな」

坂本会長「その通りですね」

林幹事長代理「我々の時代はですね、若い頃は、トラックの運転者というのはね、一般から見るとさへ、サラリーが良かったんです。それはもう、長時間の運転も日常茶飯事でしたが、時代がどんどん変わってますね、それだけで済まなくなってます。危険でキツイというものは、トラックに限らず現場からどんどん退くようになってます。だから、そ

ういった意味では、ここで一度見直しをしていく必要は十分あるのではないかと思います。なぜかという点、例えば、旅行そのものは変わりませんが、旅行の形態が変わったのです。昔は、50人のバス何台などと、団体でいうものが少なくありませんでした。しかし今はもう、本主に小グループだとか、ネットで調べて行くとか、本主に仲の良い人達だけで行くとかですね、そういう風に変わってきている。旅行自体はなくならないが、そのスタイルがどんどん変化してきています。同じように物流もですね、変わってきています。昔は運転者を使い捨てみたいなものが多少はあったんですけど、今は、社会保険や厚生年金完備は当たり前で、福利厚生を充実させないといけなくなっています。やはりそれに応えるにはですね、それなりに儲けるシステムにならないとやっていけないというところになります。皆、相乗効果で、トラックだけ儲けるのではなく、物流の業界そのものが潤っていくような形に、この法律をバネに改善していく必要があると。そのためには荷主に対してもよく理解を求めていかなければいけない。で、こういう風になっていくとですね、抜け駆けが出てくるんです。抜け駆け

というのは安からう悪からうですから、ちょっと危険です。それを防ぐには、業界がしっかりしていくということが大事なんです。そういう意味では、また坂本会長がいる分には安心しているんです。声が大きいただけじゃないですよ。リーダーがしっかりしている、しっかりと浸透していくものなんです」

坂本会長「先生のおっしゃる通りです。悪貨は良貨を駆逐すると。正直者が馬鹿を見たらいけない」ということは、先生がおっしゃられた、悪質事業者、いわゆる社会保険を払わないで、お客さんにはウチは安く行きますというふうな事業者。これは悪質事業者ですね。今度の法律では、国会議員の先生方のご理解で、そうした悪質事業者を排除できるようになりました。悪貨が良貨を駆逐するということがなくなるわけです。正しい、本主にアイデアを凝らし、マーケットのことを考えて、社会のことをしっかりと理解した上で、経営する事業者が公正な競争をすることになる。そして活力の満ちた社会にするということが、今度の法律です。だから、先生方からご賛同を頂戴したわけです。なので今年は明るいんです。とにかく明るいんです」

「物流業界全体が潤うよう改善を」林氏



自由民主党
林 幹雄幹事長代理

衆議院議員、自由民主党、当選9回。

平成5年・衆議院議員初当選。同10年・運輸政務次官、同11年・自民党交通部会長・同15年に国土交通副大臣に就任。同20年には国務大臣・国家公安委員長に就任。同21年・自民党筆頭副幹事長、同26年・自民党総務会長代理、同地方創生実行総合本部本部長代行、衆議院議員運営委員長を経て、同27年に経済産業大臣に就任。

同28年から自民党幹事長代理を務めている。